

2025（令和7）年12月13日
厚労省ろうきょうオンラインセミナー
『ミドル・シニアの働きがい向上・雇用の創出』
事例紹介

**(特定)労働者協同組合チャイルドセンター彩葉 (いろは)
みらくる児童発達支援事業所**
代表理事 青竹 勝



児童発達支援事業などを行なうチャイルドセンター彩葉

- **自己紹介**：1960（昭和35）年生まれ。上京し通信会社でシステムエンジニアの仕事に就く。練馬区報で福祉作業所のボランティア募集を目にし、障害福祉と出会う。49才の時に故郷の鯖江市に戻り、県内の福祉施設で経験を積む。2020年（60才のとき）に障害者就労支援の一般社団法人つくるお日さまの社を設立、2024年（64才のとき）に放課後デイサービスの労働者協同組合を設立。
- **鯖江市の紹介**：人口68,037人、世帯数26,353（9月1日現在）。今年、市制70周年。福井市の南に隣接する。めがね、纖維、越前漆器が三大地場産業。



鯖江市のウェブサイト、西山公園SNSから

➤ 【チャイルドセンター彩葉 概要】

✓ 法人設立：2024年11月、福井県鯖江市平井町（福井県第2号）

✓ 事業開始：2025年4月1日 組合員：5名

（全員常勤職員、20代2名、50代2名、60代1名）

シニアのボランティア

✓ 事業内容：放課後等デイサービス・児童発達支援事業。利用登録児童10名。

子どもたちが安心できるフリースペース等を計画中。

➤ 設立経過1

• 2020年、就労継続支援B型事業などを行なう一般社団法人「つくろお日さまの杜」設立（鯖江市平井町）。以前から労働者協同組合について知っていたが、労協法制定前のため、一般社団法人で立ち上げることとした。

➤ 設立経過2

就労継続支援B型事業などを行なう一般社団法人「つくりお日さまの杜」 みんなの家



検品・梱包・袋詰めなどの軽作業、エプロン等の縫製、チラシ作成、福井の木を使った木工製品の製造のほか、日中一時支援や、フリースペースを設けプログラミング教室などを行っている。

□ 2024年

- ・「お日さまの杜」の活動をつうじ、安心して過ごし生きる力と夢を育むことができる放デイや居場所をつくる必要があると考えた。
- ・夏、障害支援相談員や保育士、「お日さまの杜」職員の参加が見込めることとなり、ワーカーズコープ連合会やワーカーズコープ・センター事業団福井事業所の支援も受け、労協の設立を検討。

- 10月14日、鯖江市で行われた、ふくい協同労働推進ネットワーク主催の「福井でつながろう！！よい仕事交流集会」に参加。（写真左下）
 - 11月6日、労協コモンウェーブ（三重県）を見学。（写真中下 SNSより）
 - 11月16日、設立総会を開催。（写真右下）
 - 11月～12月、開業資金のためクラウドファンディング。（写真右）
- 空き家の民家の購入・改築の資金とした。

□ 2025年

- 4月1日、放課後等デイサービス「みらくる児童発達支援事業所」として指定。
- 6月1日、特定労働者協同組合として認定



- 2025年3月15日 開所式、内覧会を行った。佐々木勝久・鯖江市長、小野田謙一・福井県産業労働部副部長（現、鯖江市副市長）、北出順子・ふくい協同労働推進ネットワーク会議代表（福井大学・准教授）、杉本美佐子・ワーカーズコープ福井事業所副所長に挨拶いただいた。



佐々木市長「労働者協同組合チャイルドセンター彩葉 放課後等デイサービス みらくる児童発達支援事業所の開所式が執り行われました。このような事業者が地区にはなくニーズのあった支援が行われること、大変嬉しく思います。みらくる児童発達支援事業所のますますのご発展と、ここに集う子どもたちの健やかな成長を心よりお祈り申し上げます。」（写真右端。同SNSより）

▶ **労協選択の理由**：労協法の意見反映原則は福祉事業をより適切に運営する上で不可欠。お互いが認め合い対等で風通しのよい関係性づくりは、利用児も働く組合員も自らの人生を生きる上で土台となる、と考えた。

定款第1条（目的）

本組合は、組合員の意見を反映して組合の事業が行われ、組合員自らが事業に従事することを基本原理とする協同組合として、心身に障害のある子どもの育ちを支え、引きこもりの方や高齢者など社会的に弱い立場にある方々の福祉の増進を図るとともに、障害の有無に関わらず地域社会において個々の尊厳を保持しつつ自分らしい心豊かな暮らしが営めることができる持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする。

チャイルドセンター彩葉

チャイルドセンター彩葉は子どもや若者がありのままの自分で安心して過ごせる居場所として放課後等デイサービス、子ども食堂、フリースペース、第三の居場所などを運営する法人です。

一人ひとりの子どもの違いや個性を尊重し、子どもの持つ育つ力を信じ、子どもの想いと自主性を中心を置き、子どもから学ぶ姿勢を大切にし、子どもたちがゆったりした時間とたっぷりした経験を持てる居場所を作りたいと考えています。

小さな達成・成功経験が自己効力感を上げ、人生を前に進めるチカラになると考えています。



「子ども食堂」 (準備中)

無料または低価格で、食事を提供します。
経済的な理由で食事を充分に摂れない子どもや、いつも一人で食事を摂っている子どもたちに美味しい楽しくご飯を食べられる食堂を作ります。



不登校生の フリースペース・第三の居場所

子どもの好きなことを大切にした活動場所
共に学びながら目標に向かって
歩んでいける強い力をつくり合う

「放課後等デイサービス」 2025年4月OPEN みらくる

障がいを持った子どもたちや
発達に特徴のある子どもたちの
活動の場です。



学校になじめず、家に閉じこもりがちな方もぜひご相談ください。

ちょっとのぞいて見るだけ、ちょっと玄関に入ってみるだけ、

ちょっと中を見てみるだけ…のスマールステップからいっしょに始めませんか？



児童発達支援・放課後等デイサービス



「みらくる」は、その子、その人の個性や特性、好きなことに合わせた活動をすることで、興味の幅を広げたり、新しいことにチャレンジする気持ちを後押ししていきたいと思っています。遊びや運動、創作活動などの個別支援、集団支援を通じて、将来自立した生活を営む上で必要な力を促進するための場所を提供します。
「できた！」を自信に繋げられるように支援します。
保護者の方へのフィードバックを丁寧に行い、子どもたちの成長を共に支えます。

営業日月～土



info.childcenter.iroha@gmail.com
鯖江市平井町57-10-17
Tel: 0778-67-4720



事業所名

みらくる児童発達支援事業所

支援プログラム

作成日

2025年4月1日

法人（事業所）理念	さまざまな体験を重ねることで自己肯定感を育み、安心できる人との関わりを通じて信頼感を築き、支援のある環境の中で安心感を得ながら、社会の中で共に生きる一人の人間としてお互い成長していく。			
支援方針	人とのふれあい、様々な遊びや体験等を通じて、心地よさ、うれしい、楽しい、葛藤といった感情、また自ら遊び判断し、意思を決定したり、折り合いをつける力が育めるような支援を行う。			
営業時間	10時0分から18時0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容				
本人支援	健康・生活	健康的な心と体づくり	健康状態を把握するとともに、身支度、手洗い、水分補給など生活スキル、身辺自立の力を身につける。調理体験等で食を営む力の育成に努めるとともに、食の大切を学ぶ。	
	運動・感覚	体を動かす楽しみを知り、五感を養う	運動や野外活動を通じ身体能力の向上や運動機能の発達を促し日常生活に必要な動作の基本を身につける。遊具を使った遊びや創作、庭遊びを通じて楽しみながら五感や想像力を養う。	
	認知・行動	自己理解とよりよい行動	個々の認知の特性に応じ、適切な認知・行動の習得、集団活動等の中で理解力・行動力を伸ばす。パズルやブロックを通じて空間や時間、数の概念、注意力等の形成を支援する。	
	言語 コミュニケーション	心の表現、意思伝達	場面や相手の状況に応じた適切なやり取り、他者との適切なコミュニケーション方法を学び、共感・傾聴する力を育む。適切な言葉遣いの習得等コミュニケーションの基礎能力の向上を促す。	
	人間関係 社会性	豊かな人間関係をつくる	自己理解、気持ちのコントロール、折り合いをつけられるようにな力を育む。順番を守る、感情を言葉で表現する、会の司会の体験や、遊具の貸し借りなどを通じて社会的スキルを習得する。困った時に助けを求められるようにな力を育む。	
家族支援		分かりやすく具体的な個別支援計画を作成し、ご家庭との連携を深め、保護者の方と一緒にして療育を進める。	移行支援	スムーズな移行が行えることを目的に支援内容等を情報共有し、安心したサービス移行ができるよう支援する。
地域支援・地域連携		図書館など地域の様々な場所に外出し、社会経験を増やすと共に社会ルールやマナーに接する機会の提供を行う。他の福祉サービスや学校など必要に応じて連携をとり支援力を高める。	職員の質の向上	外部研修の受講や勉強会を実施し、職員のスキルアップ、支援の質の向上を図る。
主な行事等		季節の行事（お花見、七夕、ハロウィン、クリスマス等）、長期休みの行事（お出かけ、食育、水遊び等）、誕生日会、卒業生を送る会、保護者交流会、避難訓練		

みらくる通信



木のジャングルで走り回る。

好きな歌を歌い、大きな声で叫ぶ。

「遊ぼう！」「あ～、○○のお迎え～」「も～、なんで～！」

誰もが持つ“生きる上の苦しみ”を、時には歌い、時には走り、遊びながら乗り越えていく――

そんな彼らの人生の伴走者となれるような関係性を築くことができたらと願っております。

スタッフ（指導員）は経験豊富な保育士、英語教師、保育士1年生です。

子どもたちが安心して、そして楽しく過ごせる居場所であること。

そして、一人ひとりの「できる！」を増やし、自信につなげていけるよう、スタッフ一同、力を合わせてまいります。

今後とも宜しくお願い致します。

代表理事 青竹勝

ひまわりが
すくすく育きました



子どもたち一人一人の個性を大切にしながら放課後の時間を
安心して楽しく過ごせるよう支援していきます
あそびや学びを通して毎日の小さな成長や笑顔を引き出せるよう
スタッフ一同日々取り組んでおります



子どもたち一人一人の個性を大切にしながら放課後の時間を
安心して楽しく過ごせるよう支援していきます
あそびや学びを通して毎日の小さな成長や笑顔を引き出せるよう
スタッフ一同日々取り組んでおります

ミュージックケア

料理教室

池田あそびハウス

平井公園

ひまわり種まき

河田コミセン
読み聞かせ

果てしない街の向こうに oh oh 手を伸ばそう
誰かのために生きてみても oh oh tomorrow never knows
心のまま僕はゆくのさ 誰も知ることのない明日へ

いまもまだ 大好きな
あの歌は 聞こえてるよ
いつも やさしくて 少し さみしくて
あの頃は なにもなくて
それだって 楽しくやったよ
メロディー 泣きながら
ぼくたちは 幸せを見つめてたよ

長年システムエンジニアとして働いてる中で練馬区の区報で福祉作業所のボランティア募集の案内を目にし、それに参加。今から約20年位前のことです。これが私と障害福祉との出会いです。

その後帰福し、いくつかの事業所に勤め、5年前に障害福祉事業所を立ち上げることが出来ました。

その後、プログラミング教室などをを行い、昨年の春頃には20歳前後の若者たちと出会い、子どもの頃の育ちがいかに重要かを改めて実感し、「子ども時代に、豊かな愛情の中で育ってほしい」――そんな思いから、昨年秋ごろから「彩葉《みらくる》」の設立準備を始めました。

この事業所は「労働者協同組合」という法人格を持ち、賃労働という関係性を排し、経営や運営をみんなのアイデアで担う仕組みにより、一人ひとりの新しい生き方を支える可能性に繋げられたらと考えております。

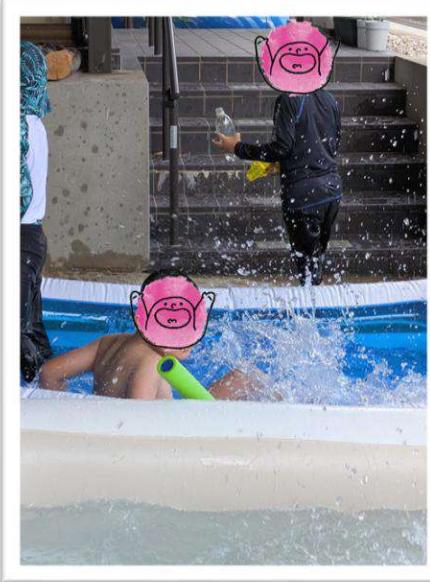
青竹

➤ 活動写真



←HALLOWEEN

玄関で水遊び
(夏休み) →



近くの公園



落書き



ミュージックケア (夏休み)



庭で遊ぶ

➤ 職員から一言

放課後等デイサービスのみらくるは、支援員として4名の常勤職員で運営しています。毎日会議を開いて、運営や困りごと、今後の予定などを話し合っています。

- ・みんなで話し合い
- ・一人ひとりの声を大切に
- ・温かい職場
- ・連携やチームワークの中に深い信頼関係が生まれ、仲間と築く居場所として機能する。

職員全員がチームとなってお子様のやつてみたいを応援していきます。温かく前向きに一歩ずつ成長を見守っていきます。子どもたち一人ひとりの笑顔と成長を大切に安心して過ごせる時間をつくりたいです。毎日、新しい発見とチャレンジがいっぱいです。

子どもたちの支援をより良くするためにみんなで話し合い、自分たちの意見が反映される、安心で温かい職場作りを目指します。

職員全員がチームになり子どもさん一人ひとりの声を大切にして「やってみたい！」を応援していき、温かく前向きに一歩ずつの成長を見守っていきます。

➤ チャイルドセンター彩葉の課題と考えること

- ・ スタート時の資金、軌道に乗るまでの運転資金
- ・ 放課後等デイサービスとして学校の長期休み時等での短時間支援職員等の確保
- ・ 放課後等デイサービス以外の事業の展開、ボランティア等の確保
- ・ 一人ひとりの発達段階、特性に合わせた支援プログラム
- ・ 彩葉の仲間での労協についての勉強、それに基づく運営、よさを最大発揮する

➤ 可能性、やりがいと感じること

- ・ 感情を言葉にすること、気持ちをコントロールすることが難しい発達障害、ADHDの特性の子どもたちに関する個別支援、集団支援
- ・ 不登校等の子どもたちへの繋がり

▶ミドル・シニアにとっての労働者協同組合

- ・ 子どもたちが色々な体験を通じての成長…シニアの豊かな経験や趣味力（趣味や特技を生かす）

子どもは、小さな達成や成功の経験を積み重ねることで自己効力感を高め、人生を前へ進める力を獲得できると考えています。しかし、学校に十分に通えなかったり、障害などに応じた学習の機会が限られていたりする場合、基礎的な学力や体験が不足し、そのことが将来への夢を諦める要因となることもあります。

そこで、豊かな経験や趣味力を持つ地域の大人たちが、生きづらさを抱える子どもたちの心の支えとなり、伴走者として見守ることで、「けっして一人ではない」という安心感を伝えることができます。温かい愛情に包まれ、守られていると感じられる安心できる居場所で、さまざまな体験を重ねることによって、自立心を養うことができ、その関わりを通じて、子どもは自分の人生を主体的に生きる力を育むことができると思います。

このような役割を担う仕組みには大きな可能性があり、地域にそのことが求められているものだと考えて います。

ミドル・シニア世代の参画できる仕組みは、地域共生社会を実現するための鍵となると考えています。



ご清聴ありがとうございました。

労働者協同組合チャイルドセンター彩葉